

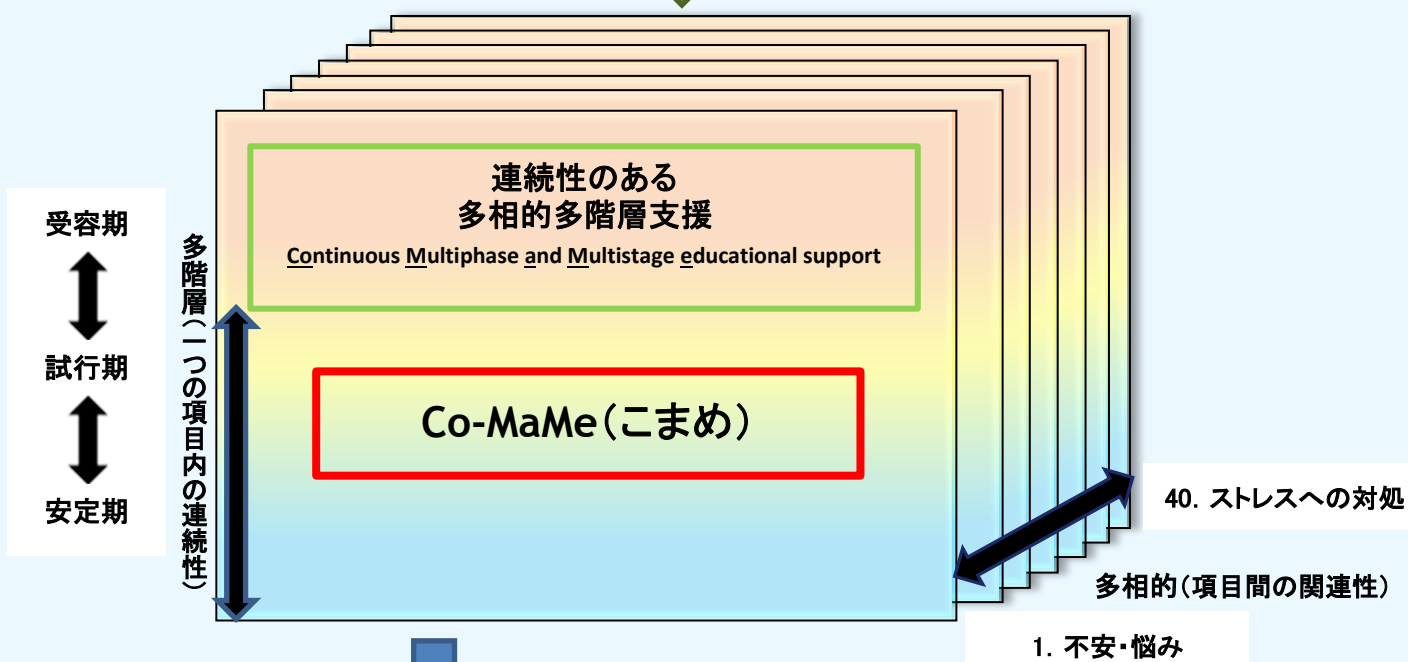
-Co-MaMe (連続性のある多相的多階層支援)-



こころの病気のある子どもの教育的ニーズ

心理 不安・悩み (他 8 項目)	社会性 他者理解 (他 9 項目)	学習 注意・集中 (他 7 項目)	身体 感覚過敏 (他 4 項目)	学校生活 見通し (他 2 項目)	自己管理 病気の理解 (他 4 項目)
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------

教育的ニーズ(40項目)についての支援・配慮を分析して分類



1. 不安・悩み (94)

課題

- 不安が強いため教室に入れず、強迫的な行為や暴言・暴力がある
- 見通しをもてずに自信がなく、新しい活動を嫌がる
- 心配が強くて経験の幅が広がらないため、進路に不安がある

受容期 (37)

- * 気持ちを聞く (18)
 - 話したい時にじっくり聴き、認める
 - イライラすること等、感情を言葉にできるようにする

- * 共感、理解する (4)
 - その時にできていることをほめる
 - 否定的な言葉を使わずに接する

試行期 (35)

- * 無理なく好きな活動ができるようにする (15)
 - 本人が好きな活動を行う
 - 授業はゆったり進めて会話を増やし、学習量を減らす
 - 不安になりやすい場所、時間は避ける
- * 相談しながら行えるようにする(15)
 - 行ったことを振り返り、落ち着ける方法や対処の仕方を一緒に考える
 - 不安や困難さを具体的に相談して共有していく

- * スモールステップで行う学習設定(5)
 - 一つ一つ見本を見せたり、練習したりしてから行う
 - 少しずつ離れて一人で活動できるように見守る

安定期 (22)

- * 見通しをもたせる(15)
 - 学校のルール・日程、活動内容を板書や手元で視覚的に提示する
 - 初めて体験すること、場所、内容を詳しく説明する
- * 目標を設定して学習(9)
 - 目標を細かく設定し、達成したら変容に気付かせる
 - 目標をクリアできない原因やその対策を考えさせる

- * 対処方法を考えて取り組めるようにする(8)
 - ロールプレイを行い、不適切な行動を体験・不適切な行動を考えて練習する
 - あらかじめ対策を立てられるようなスキルを身につける
- * 将来に向けて学習する(5)
 - 進学についての知識を身につけられるようにする
 - 実習で困った場合の対応方法を身につけられるようにする

項目内での支援の連続性【多階層】

教育的ニーズの一つの項目内において、児童生徒の状態に応じて支援・配慮が変化

項目間での支援の関連性【多相的】

教育的ニーズ項目間においても児童生徒の状況に応じて関連しながら支援・配慮が変化

Co-MaMe の活用

- 児童生徒のアセスメント
- 支援・配慮の見通し・共通理解
- 医療・福祉等との共通ツール
- 教職員研修
- 不登校児童生徒への支援
- うつ病・適応障害への教育的対応

Co-MaMe (連続性のある多相的多階層支援)詳細

研究の背景

- 全国の特別支援学校(病弱)、病弱・身体虚弱特別支援学級に在籍する児童生徒の病類別の割合は、精神疾患及び心身症が最も多い。
- 精神疾患及び心身症は「こころの病氣」とも言われ、発達障害の二次的な障害や不登校などの適応面や行動面に困難を抱える児童生徒が含まれ、その多くは小・中学校や高等学校に在籍していると考えられる。

研究の目的

- 特別支援学校(病弱)での実践事例を収集、分析し、精神疾患及び心身症のある児童生徒への支援・配慮の有効な手立てを示す。
- 小・中学校や高等学校に在籍している発達障害の二次的な障害や不登校などの適応面や行動面に困難を抱える児童生徒への支援・配慮にも活用できる成果物を作成する。

教育的ニーズ (40項目)

心理	不安・悩み / 感情のコントロール / こだわり / 意欲・気力/自己理解 / 気持ちの表現 / 情緒の安定 / 気分の変動/自信
社会性	集団活動/社会のルールの理解/コミュニケーションスキル/同年代との関係/家族との関係/教師との関係 / 異性との関係/他者への信頼/他者への相談/他者理解
学習	学習状況/処理能力/聞き取り・理解力/読み・書き/記憶力/注意・集中/学習への意識/経験
身体	身体症状・体調/巧緻性/動作・体力/多動性/感覚過敏
学校生活	見通し/物の管理/登校・入室への抵抗感
自己管理	睡眠・生活リズム/食事/服薬/病気の理解/ストレスへの対処

教育的ニーズ40項目中の1つ

課題 各教育的ニーズの具体的な内容

支援・配慮の事例

35. 登校・入室への抵抗感(33)

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不安が強いため教室に入らず、強迫的な行為や暴言・暴力がある ・見通しをもてずに自信がなく、新しい活動を嫌がる ・心配が強くて経験の幅が広がらないため、進路に不安がある 	
受容期 (16)	<ul style="list-style-type: none"> * 学習場所を柔軟に変更する(9) ・本人が好きな活動を行う ・授業はゆったり進めて会話を増やし、学習量を減らす ・不安になりやすい場所、時間は避ける 	<ul style="list-style-type: none"> * 共感、理解する(2) ・気持ちを受け入れて、信頼関係を築いていく
試行期 (12)	<ul style="list-style-type: none"> * 無理なく好きな活動ができるようにする(5) ・簡単で好きな内容で学習したり、楽しい経験をしたりする 	<ul style="list-style-type: none"> * 友達と関わるようにする(2) ・友達の様子を伝えたり、友達が登校を誘ったりする
安定期 (5)	<ul style="list-style-type: none"> * 相談しながら行えるようにする(5) ・イライラした時の行動や学習内容、座席の位置等を相談していく 	<ul style="list-style-type: none"> * 自分から伝えられるようにする (1) ・体調が悪い時、イライラする時は自分から伝えられる
	<ul style="list-style-type: none"> * 役割を持たせて活動する設定(1) ・学級で取り組んでいることに役割をもたせる 	<ul style="list-style-type: none"> * 将来に向けて取り組む(3) ・将来の自分を想像し、地元の学校での生活習慣に必要な力を身につける

受容期 教員(担任)から、気持ちを落ち着かせて共感や受容をしながら、活動する上での土台を築く段階

試行期 教員(担任)との関わりの中で、気持ちや行動の振り返りを行いながら、少しずつ取り組む段階

安定期 友達や社会との関わりの中で、自分にあった対処方法を見つけて行いながら、目標に向けて取り組む段階

※括弧内の数字は分析した事例の合計数
 ※課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

Co-MaMe (連続性のある多相的多階層支援)活用データ

アセスメントシート

心理	5/8	/
A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	○	
A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)		
A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)		
A4 意欲・気力 (目標がもてない、やる気がおきない)	○	
A5 自己理解 (何が辛いのか自分でも分からない)		
A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	◎	
A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出し、イライラする)		
A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)		
A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)		

学習	5/8	/
C1 学習状況 (勉強の仕方が分からない)		
C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		
C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容が分からない)		
C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		
C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)	○	
C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		
C8 経験 (生活経験が低い)		

学校生活	5/8	/
E1 見通し (予定の変更が受け入れられない)		
E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		
E3 登校・入室への抵抗感 (学校に行きたくない、教室に入れない)	○	

社会性	5/8	/
B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		
B2 社会のルール理解 (学校や社会の規則を守れない、自分で変更する)		
B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		
B4 年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	○	
B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)		
B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とトラブル)		
B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B8 他者への信頼 (人が信用できない、人と関わりたいくない)	◎	
B9 他者への相談 (困った時に相談できない)		
B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)		

身体	5/8	/
D1 身体症状・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)		
D4 多動性 (じっとしてられない、待てない)		
D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)		

自己管理	5/8	/
F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	○	
F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F3 服薬 (薬が手離せない、薬の管理が面倒)		
F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		
F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)		

記入例

- ・アセスメントした日付を記入する。
- ・2回目のアセスメントは右欄に記入する。
- ・期間をおいて再度アセスメントすることで変容を確認できるようにする。(2回目は必要に応じて利用)

- ・教育的ニーズ40項目について、対象児童生徒に当てはまるニーズについて、すべて「○」をする。

- ・「○」をしたニーズの中で、特に重要だと考えられる課題、もしくは優先的に取り組む課題について「◎」をする。

Co-MaMe
(こまめ)

「◎」をつけた教育的ニーズについて、すでに取り組んでいる支援・配慮を記入。

記入例

①「◎」をつけた教育的ニーズの記号と番号を左欄に、教育的ニーズを右欄に記入。

②「①」の教育的ニーズについて、内容を具体的に記入。

③「②」の内容について、支援・配慮等のねらい(目標)を記入。

④現在行っている支援・配慮を記入。まだ取り組んでいない支援・配慮をCo-MaMeを参考にして記入。

整理用シート

項目	記入欄	
①教育的ニーズの項目	D1	身体症状・体調
②具体的な課題内容	不安な気持ちになると、かゆみや痛みを訴えて、学習に取り組めなくなる。	
③支援・配慮等のねらい	安心した気持ちで休みながら取り組むことで、痛み等と付き合いながら学習することができる。	
④教育的支援・配慮	<p>【現在行っている取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安な気持ちや、痛みやかゆみについていつでも相談できるようにして、焦りを感じたり、罪悪感をもったりしないようにする。 <p>【Co-MaMeの図を参考にした取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の状態から[受容期]であるとと考えられ、気持ちを落ち着かせて共感や受容をしながら支援・配慮を行う必要がある。 ・不安なことは何かじっくりと聞く。 ・運動を行い頭痛や腹痛から思考をそらす。 	

Co-MaMe（連続性のある多相的多階層支援）活用例

事例検討の場面

○対象児童生徒の教育的ニーズを参加者がそれぞれチェックする。



複数の教職員が記入することで、児童生徒の実態を幅広く把握する。

Co-MaMe
(こまめ)

氏名	担当
山田 太郎	特別支援学級担当
佐藤 花子	普通学級担当
鈴木 一郎	保健室担当
高橋 美咲	スクールカウンセラー
田中 健一	PTA代表
伊藤 由美	地域連携担当
渡辺 誠	医療連携担当
山本 真由	福祉連携担当
水野 浩二	その他

【アセスメントシート】

○チェックしたニーズについての支援・配慮を考える。



すでに実施している支援・配慮を確認する。
Co-MaMe を参考に、その他にも必要な支援・配慮を考える。

項目	記入欄
対象児童生徒の氏名	
担当教職員の氏名	
実施している支援・配慮	
Co-MaMe の活用状況	

【整理用シート】



実施している支援・配慮は適切か？
→Co-MaMe の受容期・試行期・安定期の観点から考える。



連携の場面

アセスメントシートや Co-MaMe をツールにして・・・

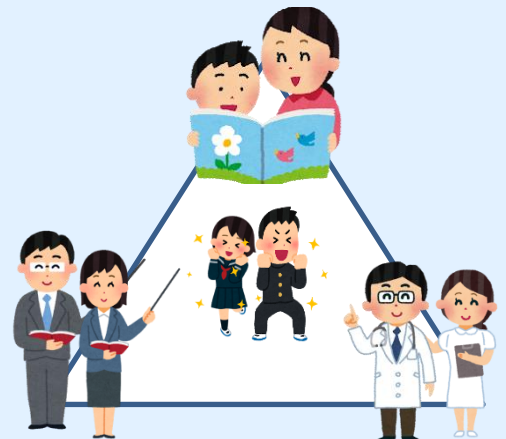
- 学校内の教員との共通理解
- 保護者との共通理解
- 特別支援学校と児童生徒の地元校の教職員との共通理解
- 医師・看護師等の病院職員との共通理解

～家庭と学校と医療・福祉の連携～



今は、受容期なので・・・

将来の姿を見通して・・・



詳しい資料の検索

NISE 専門研究



→「専門研究/調査研究/課題別研究/一般研究報告書」
→「精神疾患及び心身症のある児童生徒の
教育的支援・配慮に関する研究」

<発行元>

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
〒239-8585 神奈川県横須賀市野比 5-1-1
電話 046-839-6803(代表)

(令和元年度発行)

<本研究についての問い合わせ先>

インクルーシブ教育システム推進センター
土屋 忠之(研究代表)